

国際会計論B		講義	教授 安藤 鋭也	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナン スコースの専門選択科目, 教職科目	科目ナンバリング	23220210 25320207	

1. 授業のねらい・概要

この授業では、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards, 以下 IFRS という。）を中心に学修します。IFRS を適用（または適用を検討）している日本企業は 277 社です（2023 年 12 月末現在）。IFRS は海外でも、米国を除く多くの国で適用されています。今や「世界の共通言語」である IFRS を、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

後期の国際会計論 B では、IFRS の個別の基準・日本基準と米国会計基準の概要および主な相違点・IFRS の将来像（サステナビリティ開示を含む）を学修します。IFRS の学び方・基礎知識・概要は、前期の国際会計論 A で学修します。

受講にあたっては、「会計学基礎」「会計学総論」を履修していること、「財務会計論 B」を並行履修していることが望ましいです。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。同時に、新聞・雑誌などから具体的な事象を取り上げます。いずれにおいても、皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。

3. 授業計画

1. ガイダンス, 国際会計論 A の振り返り	9. 日本基準(1)概要
2. 第 3 章 IFRS の概要(7) リース	10. 日本基準(2)IFRS との主な相違点
3. 第 3 章 IFRS の概要(8)引当金	11. 米国会計基準(1)概要
4. 第 3 章 IFRS の概要(9)ストックオプション	12. 米国会計基準(2)IFRS との主な相違点
5. 第 3 章 IFRS の概要(10)金融商品	13. 第 4 章 IFRS の将来像(1)個別プロジェクト
6. 第 3 章 IFRS の概要(11)法人所得税	14. 第 4 章 IFRS の将来像(2)サステナビリティ開示
7. 第 3 章 IFRS の概要(12)企業結合	15. まとめ
8. 第 3 章 IFRS の概要(13)連結・持分法	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30 分程度）。また学修内容の定着には復習が不可欠です。前回の授業内容は、配布資料も使って理解に努めて下さい（1 時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次回の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了直後に説明します。

6. 授業における学修の到達目標

IFRS の基本的な考え方を理解した上で、IFRS を巡る国際的な動向の概要を把握することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%（授業への取組み姿勢など）および期末テストの結果 50%の割合で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、橋本尚・山田義隆（2022）『IFRS 会計学基本テキスト（第 7 版）』中央経済社を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

受講にあたっては、会計の基礎知識を有している方が望ましいです。とはいえ必要不可欠ではありません。IFRSを理解してもらえよう、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

ただ授業は積み上げ、内容的にはAとBでワンセットです。したがって通年で毎回出席されることをお勧めします。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、総合商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。